

物体の運動を考えると、物理特有の考え方があります。そういった考え方の枠組みを意識すると、理解がぐっと深くなります。

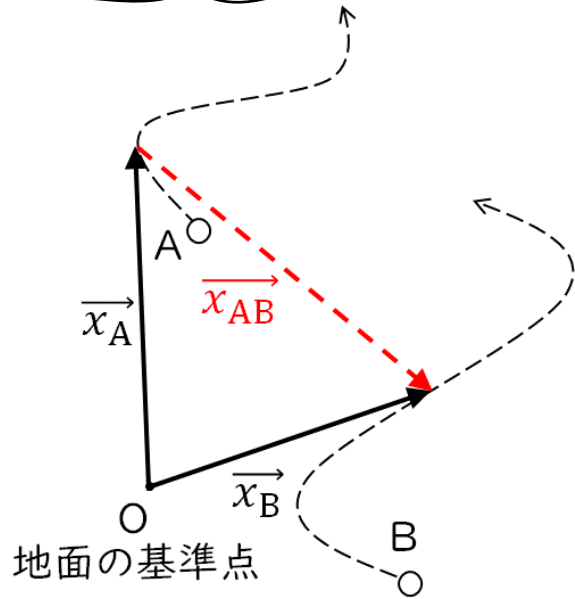
①相対運動の見方

(1) 位置ベクトルの関係

位置ベクトルの合成

$$\vec{x}_A + \vec{x}_{AB} = \vec{x}_B$$

相対位置

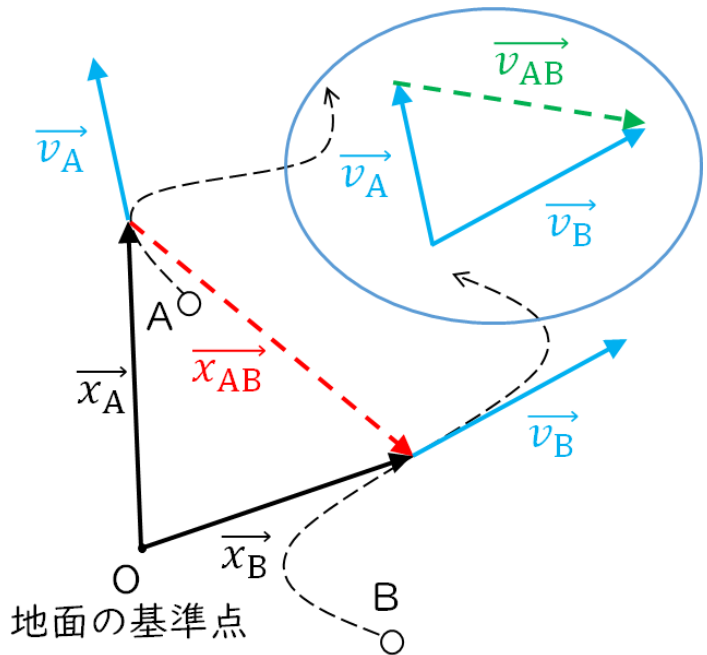
$$\vec{x}_{AB} = \vec{x}_B - \vec{x}_A$$


(2) 速度ベクトルの関係

速度の合成

$$\vec{v}_A + \vec{v}_{AB} = \vec{v}_B$$

相対速度

$$\vec{v}_{AB} = \vec{v}_B - \vec{v}_A$$


(説明)  $\vec{v}_{AB} = \vec{v}_B - \vec{v}_A$  の導出

(1) の時刻では、 $\vec{x}_{AB} = \vec{x}_B - \vec{x}_A \cdots \textcircled{1}$

$\Delta t$ 後の位置ベクトルをそれぞれ  $\vec{x}_A'$ ,  $\vec{x}_B'$  とすると、 $\vec{x}_{AB}' = \vec{x}_B' - \vec{x}_A' \cdots \textcircled{2}$

$$\frac{\textcircled{2} - \textcircled{1}}{\Delta t} \quad \frac{\vec{x}_{AB}' - \vec{x}_{AB}}{\Delta t} = \frac{(\vec{x}_B' - \vec{x}_B) - (\vec{x}_A' - \vec{x}_A)}{\Delta t} = \frac{\vec{x}_B' - \vec{x}_B}{\Delta t} - \frac{\vec{x}_A' - \vec{x}_A}{\Delta t}$$

$$\frac{\Delta \vec{x}_{AB}}{\Delta t} = \frac{\Delta \vec{x}_B - \Delta \vec{x}_A}{\Delta t} = \frac{\Delta \vec{x}_B}{\Delta t} - \frac{\Delta \vec{x}_A}{\Delta t}$$

これより、 $\vec{v}_{AB} = \vec{v}_B - \vec{v}_A$  が導かれた。

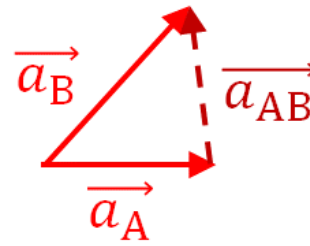
(3) 加速度ベクトルの関係

加速度の合成

$$\vec{a}_A + \vec{a}_{AB} = \vec{a}_B$$

相対加速度

$$\vec{a}_{AB} = \vec{a}_B - \vec{a}_A$$



(説明)  $\vec{a}_{AB} = \vec{a}_B - \vec{a}_A$  の導出

(1) の時刻では,  $\vec{v}_{AB} = \vec{v}_B - \vec{v}_A \cdots \textcircled{3}$

$\Delta t$ 後の速度ベクトルをそれぞれ  $\vec{v}_A'$ ,  $\vec{v}_B'$  とすると,  $\vec{v}_{AB}' = \vec{v}_B' - \vec{v}_A' \cdots \textcircled{4}$

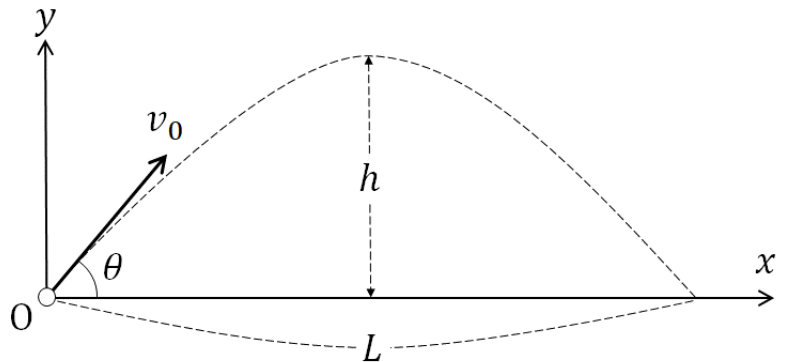
$$\textcircled{4} - \textcircled{3} \quad \frac{\vec{v}_{AB}' - \vec{v}_{AB}}{\Delta t} = \frac{(\vec{v}_B' - \vec{v}_B) - (\vec{v}_A' - \vec{v}_A)}{\Delta t} = \frac{\vec{v}_B' - \vec{v}_B}{\Delta t} - \frac{\vec{v}_A' - \vec{v}_A}{\Delta t}$$

$$\frac{\Delta \vec{v}_{AB}}{\Delta t} = \frac{\Delta \vec{v}_B - \Delta \vec{v}_A}{\Delta t} = \frac{\Delta \vec{v}_B}{\Delta t} - \frac{\Delta \vec{v}_A}{\Delta t}$$

これより,  $\vec{a}_{AB} = \vec{a}_B - \vec{a}_A$  が導かれた。

② 斜方投射 水平方向: 等速直線運動 鉛直方向: 鉛直投げ上げ運動

<問題> 図のように, 原点から小物体を水平から  $\theta$  だけ上方に向けて速さ  $v_0$  で投射しました。重力加速度の大きさは  $g$  とします。



(1) 初速度の  $x$  成分  $v_{0x}$  と  $y$  成分  $v_{0y}$  はいくらですか。

$$v_{0x} = v_0 \cos \theta \quad v_{0y} = v_0 \sin \theta$$

(2) 投射してから小物体が最高点に達するまでの時間  $t$  はいくらですか。

鉛直方向の運動だけを考える。最高点では鉛直方向の速度成分は0なので,

$$0 = v_0 \sin \theta - gt \quad t = \frac{v_0 \sin \theta}{g}$$

(3) 最高点の高さ  $h$  はいくらですか。

「 $y = v_0 t - \frac{1}{2} g t^2$ 」を使うのが基本ですが、発想を変えて最高点からの自由落下で計算してみましょう。落下時間は(2)で求めた  $t = \frac{v_0 \sin \theta}{g}$  と同じになります。

自由落下で考えると、

$$h = \frac{1}{2} g t^2 = \frac{1}{2} g \cdot \left( \frac{v_0 \sin \theta}{g} \right)^2 = \frac{(v_0 \sin \theta)^2}{2g}$$

(4) 投射してから小物体がもとの高さに戻るまでの時間  $t'$  はいくらですか。

運動の対称性(最高点に対して対称性がある)から、

$$t' = 2t = \frac{2v_0 \sin \theta}{g}$$

(5) 小物体の水平到達距離  $L$  はいくらですか。

水平方向の運動だけを考える。水平方向には等速直線運動だから、

$$L = v_0 \cos \theta \cdot t' = v_0 \cos \theta \cdot \frac{2v_0 \sin \theta}{g} = \frac{2v_0^2 \sin \theta \cos \theta}{g}$$

ただし、 $2 \sin \theta \cos \theta = \sin 2\theta$  を知っているのなら、

$$L = \frac{v_0^2 \sin 2\theta}{g}$$

としても問題ありません。

(6)  $v_0$  が一定のとき、水平到達距離  $L$  は  $\theta$  が何度のときに最大になりますか。ただし、 $2 \sin \theta \cos \theta = \sin 2\theta$  であることを用いなさい。

ここでは、 $2 \sin \theta \cos \theta = \sin 2\theta$  を使って変形しておかないと、今までに学んでいる数学の知識だけでは最大値は求められません。

$L = \frac{v_0^2 \sin 2\theta}{g}$  の式を見ると、変数は  $\theta$  だけなので、 $\sin 2\theta$  が最大になればよい。

$\sin 2\theta$  の最大値は1で  $\theta = 45^\circ$  のときであることがわかります。

(7) 最大水平到達距離  $L_0$  はいくらですか。

$$L_0 = \frac{v_0^2 \sin(2 \times 45^\circ)}{g} = \frac{v_0^2}{g}$$